

# キャリア教育の推進と充実

—駒の学び舎 世田谷区立駒沢中学校の方針—

## 1 キャリア教育の考え方

新たな定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

### 必要な基盤となる能力 「基礎的・汎用的能力」

- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- 課題対応能力
- キャリアプランニング能力

### キャリア発達

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程のこと

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」平成23年1月 中央教育審議会

## ▽ 義務教育における推進のポイント

就学前

- 人とかかわることの楽しさや人の役に立つことの喜び

小学校

- 自らの役割 ○働くこと、夢をもつことの大切さの理解
- 興味・関心の幅の拡大 ○自己及び他者への積極的関心の形成
- 社会性 自主性・自立性 ○関心・意欲

中学校

- 社会における自らの役割 ○将来の生き方・働き方
- 目標を立てて計画的に取り組む態度 ○進路の選択・決定

高等学校

社会・上級学校へ

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」平成23年1月 中央教育審議会

## 2 キャリア教育の課題

### (1) 学校

- 小学校では、キャリア教育の視点から授業や教育活動をとらえることや、学年や発達段階に応じて、体系的・計画的にキャリア教育を推進する必要がある。  
※高校・大学受験や就業までの時間が長く、教員も児童も意識が低い傾向がある。
- 中学校では、小学校での取り組みを理解し、進路指導や職場体験だけでなく、すべての教育活動で体系的・計画的にキャリア教育を行う視点をもち、総合的に推進する必要がある。※いわゆる出口指導に偏る傾向がある。
- 学び舎では、小中が互いの取組を理解し、円滑な接続を重視した計画を立案して実践する必要がある。

- A すべての教育活動で、児童・生徒の発達段階に応じた基礎的汎用能力を育成する指導計画を作り、実践する。（教育課程、全体計画、年間指導計画）
- B 成功体験や失敗からの回復体験を多く経験させる学習の場面をつくる。
- C A の発達に応じて、学校での学習内容が社会生活に生かされていくことを実感できる体験活動、職業を中心とした社会生活について学ぶ活動、働く人の気持ちを感じ取る体験活動を取り入れる。など

### (2) その他

- 産業や経済の変容、雇用形態の多様化・流動化に対応し、児童・生徒が感じている将来への不安を解消して「生きること」「働くこと」に夢や希望がもてるよう、区立小・中学校のキャリア教育を地域とともに強力に支援する必要がある。
- キャリアカウンセリングやソーシャルスキルトレーニングの手法、現代の職業や産業社会の知見、企業等とのコーディネートを開発的に進める必要がある。

## 3 キャリア教育の充実を目指して

(1) 教職員の意識啓発、  
知識と技能を高める研修会の充実

(2) 校内体制整備・  
指導計画作成の推進

(6) 地域社会・産業界との連携の強化

(3) 小中を接続する  
教材の利活用の推進

(5) 新たな教育活動・  
体験学習の検討と実施

(4) 開発的な指導法と  
その成果の利活用の推進

#### 4 駒沢中学校のキャリア教育の体系（体験的な学習）

駒沢中学校は体系的にキャリア教育を進めています。

- キャリア学習ノートの活用

(朝学習・2学期)

- 「働く大人から学ぶ」

(職場訪問・3学期)

1年生

- 「上級学校を調べる」

(高校訪問・1学期、夏休み)

- 「高校の授業を体験する」

(訪問授業・2学期)

2年生

- 「職場体験学習を行う」

(職場体験・3学期)

- 「大学を体験する」

(大学体験・1学期、駒澤大)

- 「進路選択に向けて学ぶ」

(卒業生の話・希望調査)

- 「進路を選択する」

(進路説明会・希望<sup>3</sup>調査)

3年生

## 5 ESD（持続発展教育）とキャリア教育

駒沢中学校はユネスコスクールに加盟しており、ESD（持続発展教育）にキャリア教育の推進を位置付けています。

### （1）ESD（持続発展教育）について

- 地球温暖化や生物多様性の減少、少子高齢化などが問題となる中、持続可能な社会の担い手をはぐくむための教育が必要であるとされ、2002年の国連総会で、持続可能な発展のための教育・ESDの推進にかかる決議がなされました。
- ESDを推進する日本ユネスコ委員会では、ESDの実施において、人格の発達や自立心、責任感などの人間性を育むこと、人と人、人と社会、人と自然のつながりを尊重できる個人を育むことが重要としています。こうした考えは世田谷区の教育の基本的な考え方や育もうとしている方向性が同じであると考えています。教育ビジョンに示した目指す子ども像や「未来を担う子どもを育てる教育」は、まさにESDの考え方そのものを表しています。

### （2）世田谷区教育委員会によるESD（持続発展教育）の推進

- 教育ビジョン第3期行動計画にESDを位置付け、子どもたちの考える力、自分も相手も尊重する心、多様性や環境を尊重する力、コミュニケーションや情報活用力などを伸ばしていきます。
- 具体的な行動計画としては、キャリア教育の充実、環境・エネルギー教育の推進の充実、社会性を育む体験活動・国際理解のための体験活動の推進、教科「日本語」の充実などを進めています。

### （3）ESD（持続発展教育）とキャリア教育

- キャリア教育では、必要な基盤となる能力「基礎的・汎用的能力」を人間関係形成・社会形成能力（他の人や集団・社会とかかわる力、つながる力）、自己理解・自己管理能力（自己を生かす力）、課題対応能力（考え、行動する力）、キャリアプランニング能力（将来を見通す力）であるとしています。
- 人は、生涯にわたり社会人・職業人としてのキャリアを形成していきます。変化の激しい社会、グローバル化した社会においては、「基礎的・汎用的能力」を身に付けた自立した社会人・職業人になると同時に、子どもたちの視野を広げ、社会貢献、環境保全など、職場・職業等を通じて様々な人たちと課題の解決のために協働する「持続可能な社会」の構成員となることが重要です。
- 人や社会、自然とのかかわりやつながりは、働くことと無関係ではありません。かかわりやつながりを大切にするESDの観点を取り入れ、世田谷9年教育のその先に児童・生徒一人一人の社会的・職業的自立を目指すキャリア教育を取り組んでいきます。